



●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

- 本体脱落のおそれがあるため、下記事項をお守りください。
 - ・取付けた後に、必ず吊車レバーが下がっていることを確認してください。
 - ・枠を固定するまぐさ、柱などの下地材は硬木としてください。
 - ・躯体が軽量鉄骨(ランナー・スタッド)の場合は躯体固定ねじが効かないため、開口補強材もしくは木枠(厚み45mm以上)をまわしてください。
 - ・下地材が開口補強材の場合、ドリルねじ(NC140以下は枠同梱)を使用して枠を固定してください。
 - ・ねじは指定のものを指定本数使用して固定してください。

■取付け上のお願い

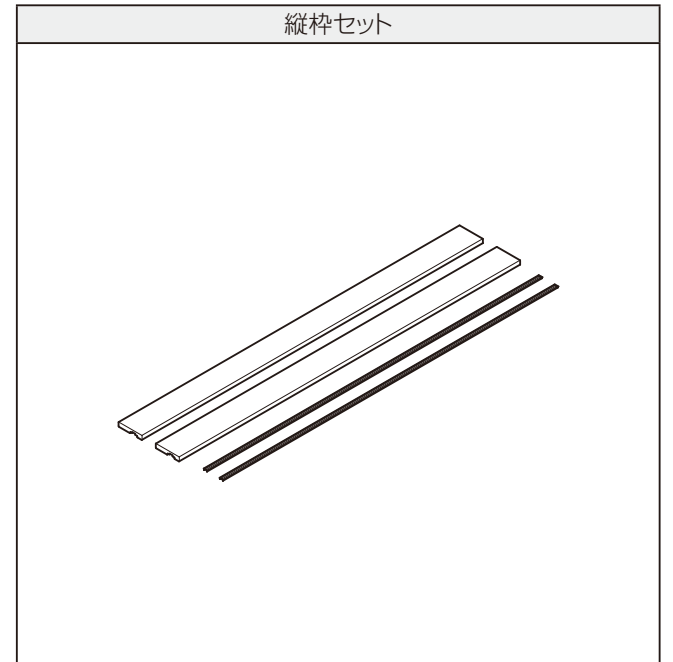
- 納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず取付け前にお買い求め店までご連絡ください。(施工後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。)
- 運搬・加工の際は、キズ付かないように取扱ってください。また、水・直射日光のあたる場所に開梱状態で置かないでください。ソリ・ねじれの原因になります。
- 枠は取付け前に開梱した状態で現場に置かないようにしてください。現場の粉塵が上レールや吊車に付着し、作動不良の原因になります。
- 本製品の組立て・取付け時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂下がり・ゆがみなどの原因となります。(本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。)
- 本体は落下させたり、立てかける時に衝撃を与えないでください。本体部品が損傷し、開閉に支障をきたす原因になります。
- 製品取付けの際の建具養生時に表面シートにテープ(ガムテープ、養生テープ、マスキングテープなど)を直貼りしないでください。テープをはがす際、表面シートを傷めたり、テープの粘着剤が表面シートに付着したまま残ることがあります。

■本体保管上のお願い

- 本体のソリ・ねじれ防止のため、下記場所に置いたり、保管しないでください。
 - ・直射日光の当たる場所・昼夜などで温度差の激しい場所・湿気の多い場所
 - 本体を長期間保管する場合は、寝かせた状態で保管してください。立て置きでの保管はソリ・ねじれなどの原因になります。
- ※建築工事中は、本体を養生・保全のため取外しておき、取付け完了後に吊込むことをおすすめします。

■部品・部材の明細

※枠はロックダウン、本体は完成品です。



■上枠セット

名称	入数
鴨居	1
枠用部品セット	1
取付け説明書	1
非木用ねじセット ※NC115/140の場合のみ	1

■縦枠セット

名称	入数
縦枠	2
戸当り	2

■引手(別売り)

名称	入数
引手	2

■枠用部品セット(上枠セット同梱)

名称	入数
枠組立用皿小ねじM4×50	4
鴨居取付け用トラスタッピンねじφ4×50	8
縦枠取付け用皿木ねじφ3.8×50	6
吊車	4
固定ガイドピンセット(取付けねじ同梱)	2

■本体ストッパー

名称	入数
本体ストッパー	1
皿タッピンねじφ4×25	3
取付け説明書	1
★皿タッピンねじφ4×40	3
★皿タッピンねじφ4×60	3
★コンクリートプラグ	3

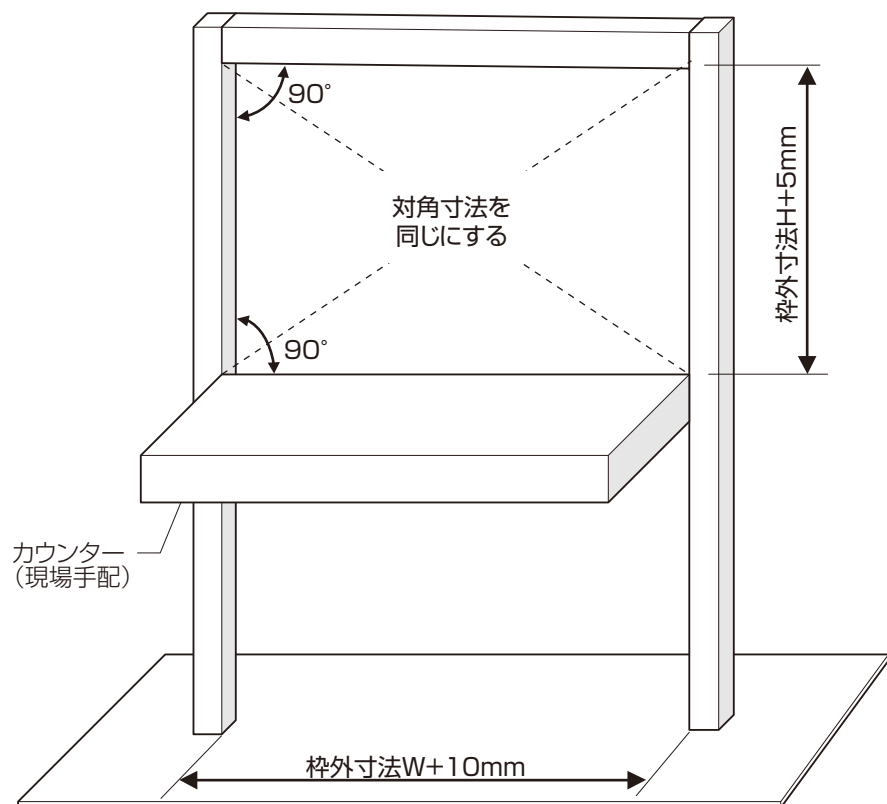
※★の部品は本製品では使用しません。

■非木用ねじセット ※NC115/140の場合のみ

名称	入数
鴨居取付け用トラスドリルねじφ4×35	10
縦枠取付け用なべドリルねじφ4×50	15
★受け金具取付け用低頭ドリルねじφ4×35	8

※★の部品は本製品では使用しません。

開口部の作り方



	見込み	対応壁厚	(単位: mm)
ノンケーシング	NC115	76~100	
	NC140	101~115	
	NC156	116~130	
	NC171	131~145	
	NC180	146~160	

▲ 注意

- 本体脱落のおそれがあるため、下記事項をお守りください。
 - ・ 枠を固定するまぐさ、柱などの下地材は硬木としてください。
 - ・ 躯体が軽量鉄骨(ランナー・スタッド)の場合は躯体固定ねじが効かないため、開口補強材もしくは木枠(厚み45mm以上)をまわしてください。
 - ・ 下地材が開口補強材の場合、ドリルねじ(NC140以下は枠同梱)を使用して枠を固定してください。

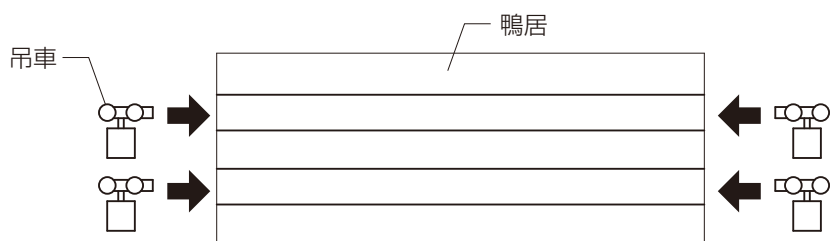
● 施工上のお願い

- ※ 柱、床、まぐさの水平、垂直を出してください。
- ※ 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理してから取付けてください。
- ※ 建具枠と柱・間柱・まぐさの間には必ずすき間をつくり、かい木を入れてください。
- ※ 建具枠の下地材には、合板などの乾燥材(含水率20%以下)を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- ※ 本体重量は2枚合計で最大35kgとなります。本製品は上吊方式を採用しているため、必ず構造計算の上、梁(まぐさ)に強度を持たせてください。強度が不足している場合、上枠および、レールの垂下がりの原因となります。
- ※ クッションフロアや弾性がある床に施工する場合は、必ず本体ストッパーの下に合板などの下地材を入れてください。開閉に支障をきたす原因となります。

取付け順序

1 部品の取付けと枠の組立て

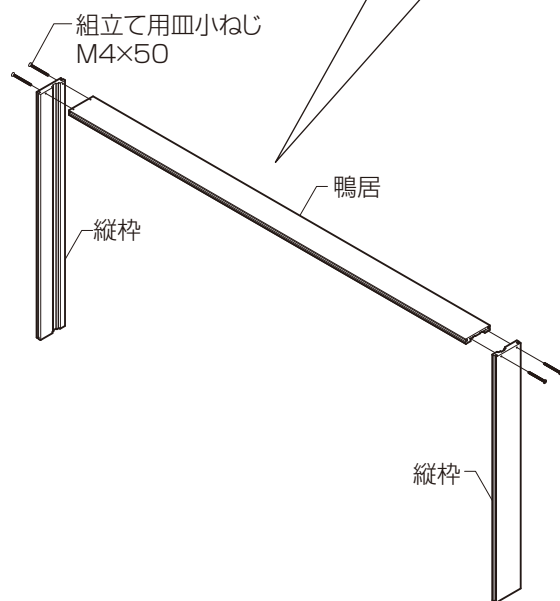
① 下図のように、吊車を互い違いの向きにして、レールの各木口よりそれぞれ挿入してください。



● お願い

- ※ 枠組立て前に鴨居レールに吊車を挿入してください。吊車の入れ方を間違えると本体の吊込みおよび、建付け調整ができません。

② 鴨居と縦枠を組み立ててください。



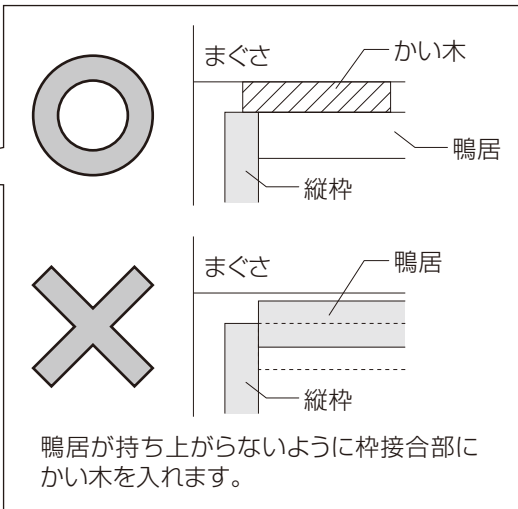
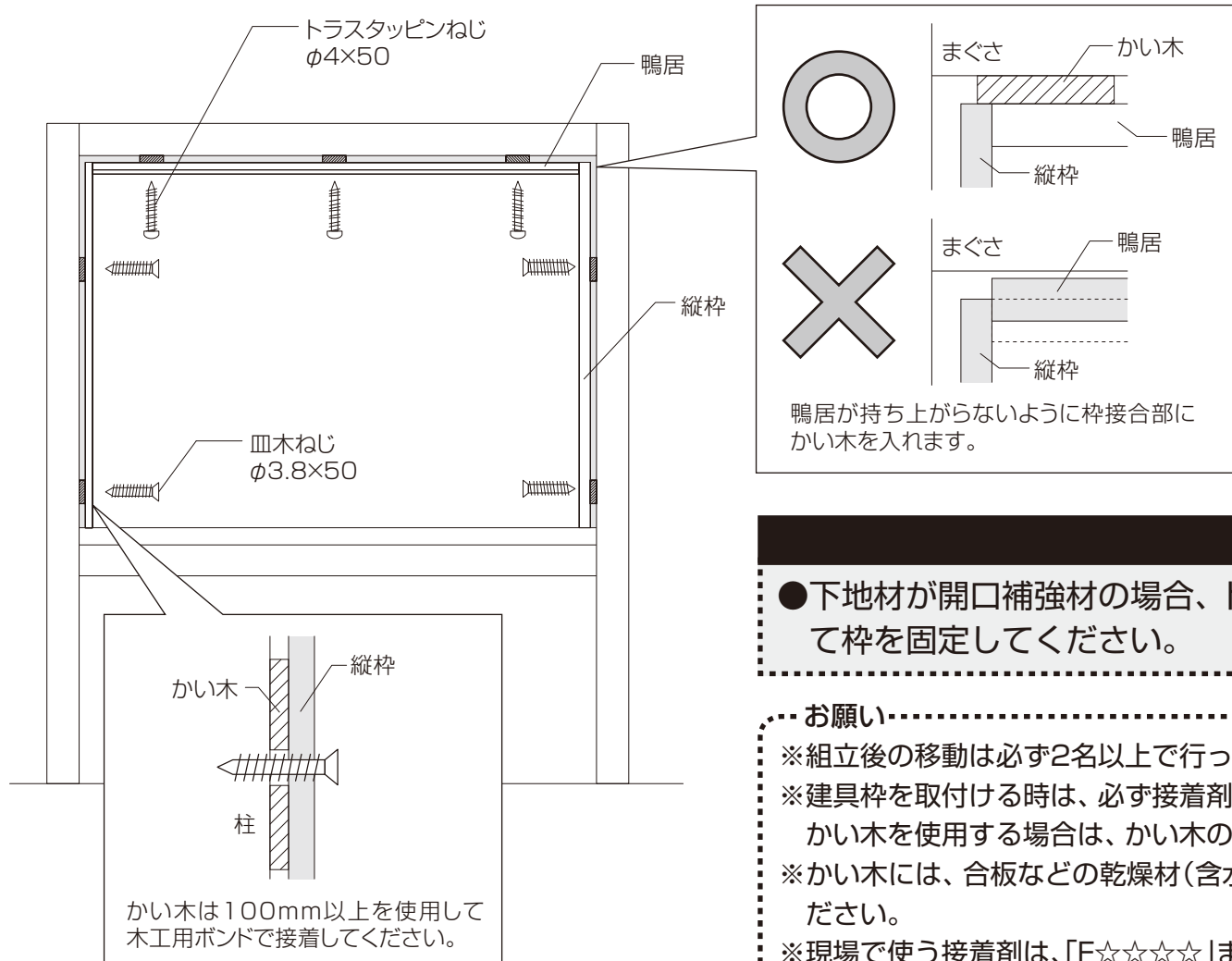
● お願い

- ※ 組立てねじは、縦枠とねじ頭が面一になるまで締め込んでください。ただし、たたきこまないようにしてください。保持力低下の原因となります。
- ※ 各部材のガイド穴にゴミが入らないようにしてください。
- ※ 枠の組立て後、揺らす・ねじれ・引っ張りなど無理な力を加えないでください。破損する原因となります。

2 枠の取付け

①鴨居および縦枠を下図のように同梱のねじで固定してください。

※下地材が開口補強材の場合、ドリルねじ(NC140以下は枠同梱)を使用して枠を固定してください。



▲ 注意

●下地材が開口補強材の場合、ドリルねじ(NC140以下は枠同梱)を使用して枠を固定してください。

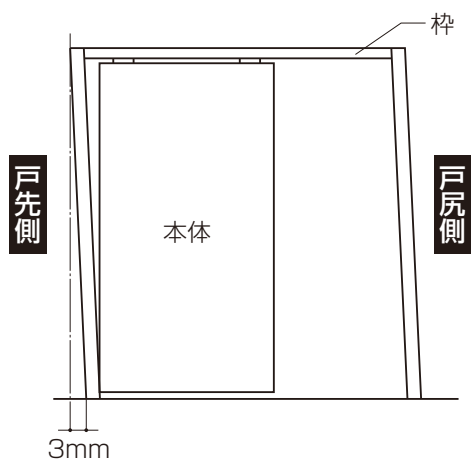
お願い

- ※組立後の移動は必ず2名以上で行ってください。
- ※建具枠を取付ける時は、必ず接着剤(現場手配)を併用してください。
かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤(現場手配)を塗布してください。
- ※かい木には、合板などの乾燥材(含水率20%以下)を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- ※現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」またはノンホルムタイプを使用してください。
- ※梁またはまぐさが軽量鉄骨の場合は、ねじ保持力が弱いので直接固定しないでください。
必ず枠と軽量鉄骨の間に木枠を入れて取付けてください。
- ※鴨居取付けねじの締めすぎにご注意ください。
上レールを変形させると本体の動きが悪くなる場合があります。
本体吊込み時に動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。

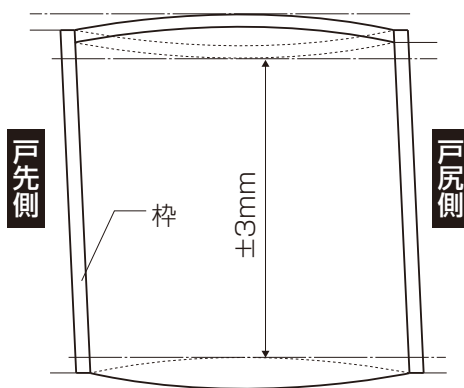
■取付け精度の許容範囲

※横方向の倒れ・奥行き方向のねじれ・枠のタイコ・ツツミが3mm以内になるように取付けてください。引戸が吊込めない原因となります。

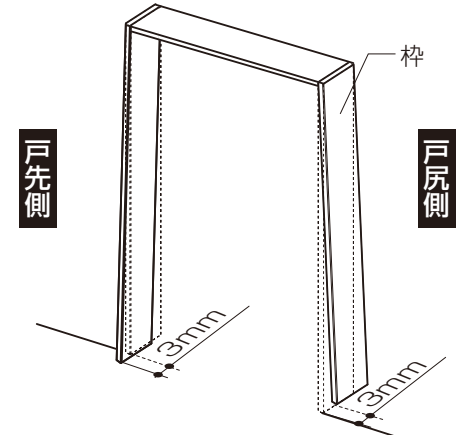
●横方向の倒れ



●枠のタイコ・ツツミ



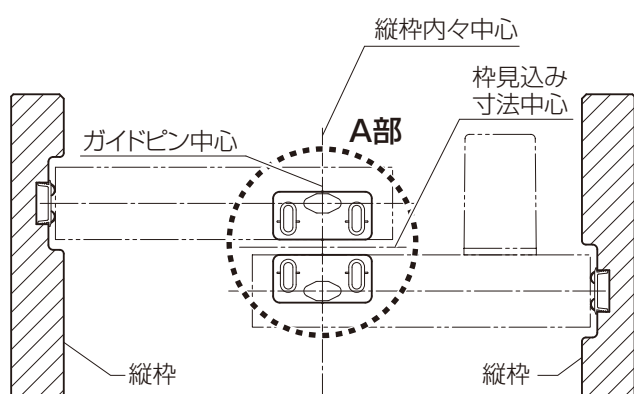
●奥行き方向のねじれ



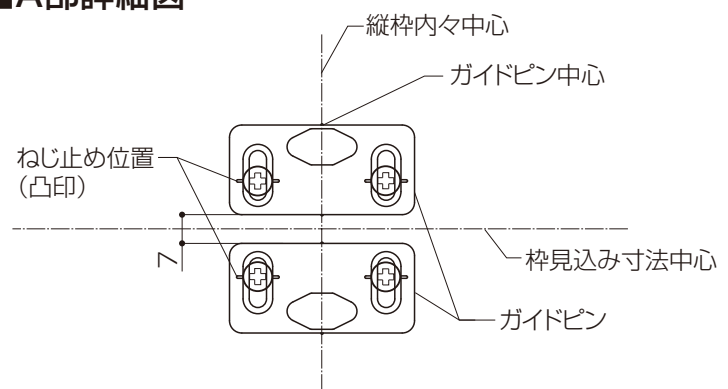
3 ガイドピンの取付け

①固定ガイドピンの取付け

下図の位置および向きにガイドピンを置き、ガイドピンの長穴(2ヶ所)の凸印(ライン)の位置にねじ止めしてください。



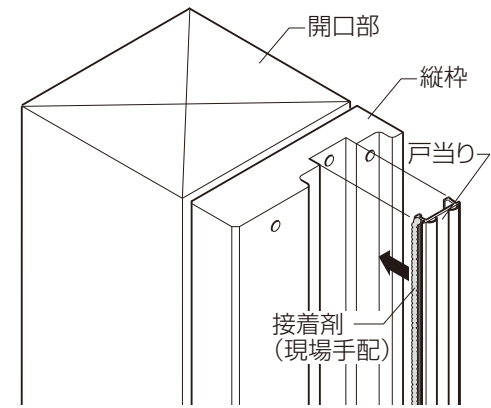
■A部詳細図



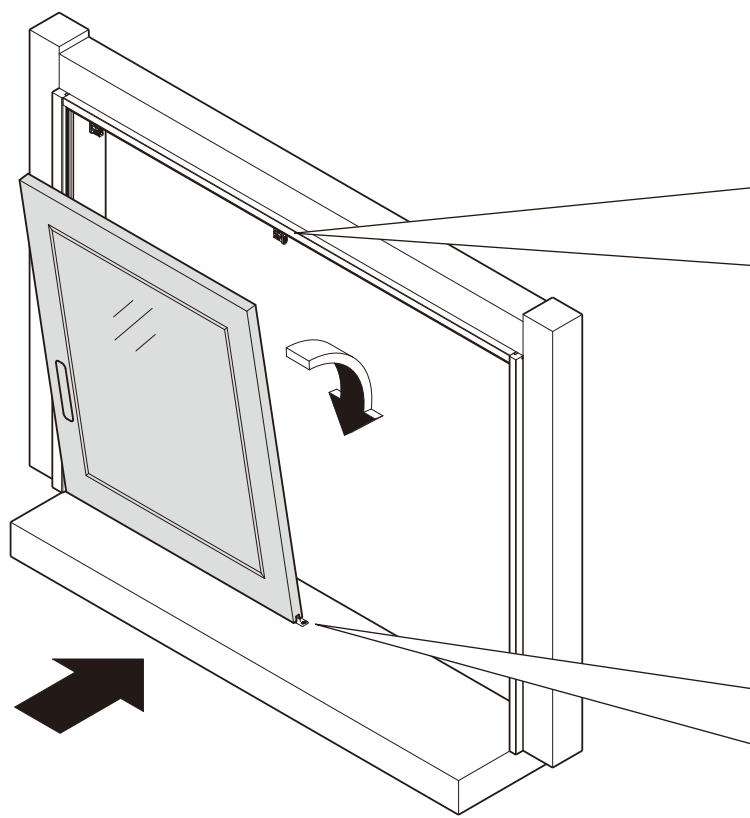
4 戸当りの取付け

- ①戸当りを現場の寸法に合わせて切断してください。
- ②戸当りに接着剤(現場手配)をつけて縦枠に取付けてください。

お願い
※現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」またはノンホルムタイプを使用してください。



5 本体の吊込み



②下図のように吊車を本体に取り付けてください。

▲ 注意

●取付けた後に、必ず吊車レバーが下がっていることを確認してください。本体脱落のおそれがあります。

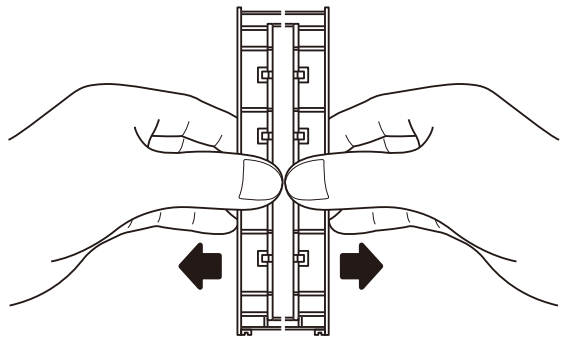
吊車レバー

①固定ガイドピンに本体の下部溝を入れてください。

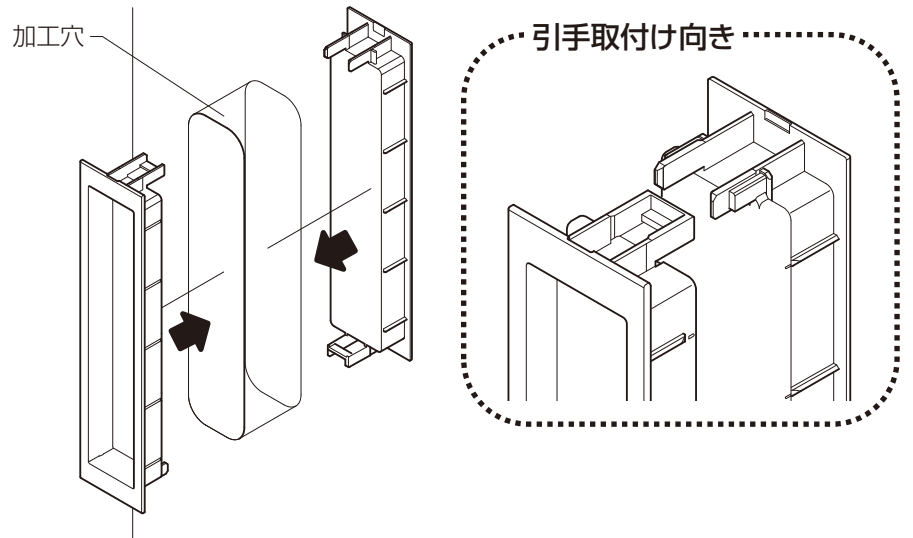
固定ガイドピン

6 引手の取付け

①引手は仮組み状態になっています。平行に引き抜いてください。

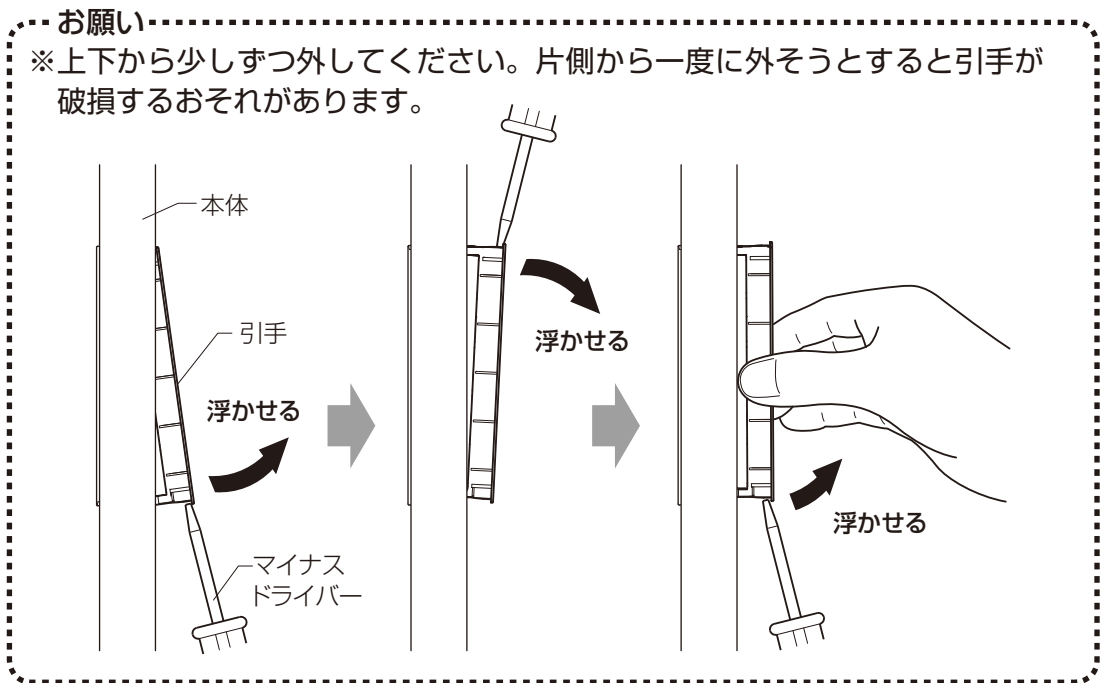
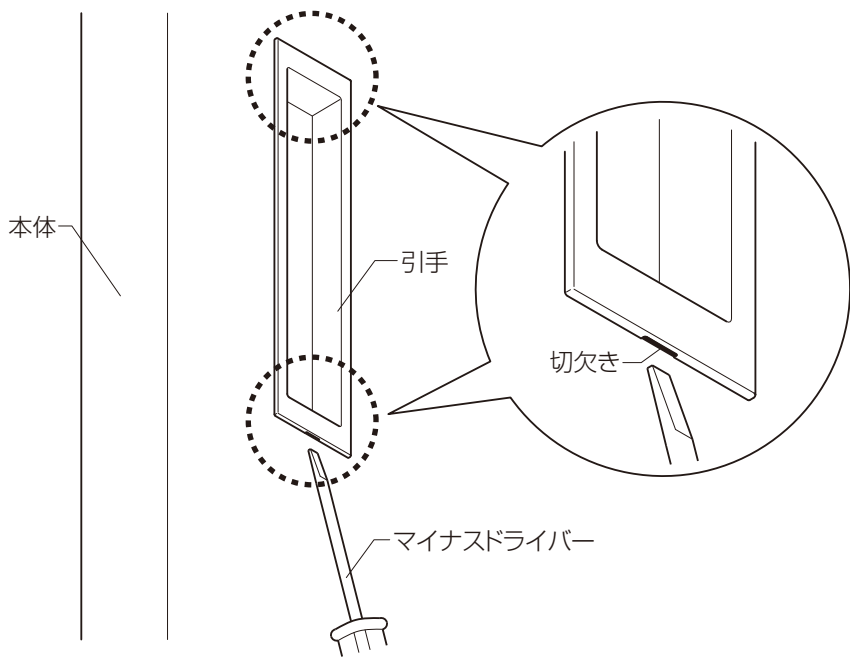


②引手本体の加工穴に引手を取付けます。表裏の引手が上下互い違いになる向きにし、加工穴に押し込み固定してください。



●引手の取外し

引手上下にある切欠きに本体をキズ付けないようにマイナスドライバーを差込み、少しずつ引手を浮かせて外します。



7 美和ロック社SL99錠(現場手配)の取付け

錠の取付けについては、錠セットに同梱の取付け説明書をご覧ください。

8 本体ストッパーの取付け

必ず取付けてください。

本体ストッパーの取付けについては、本体ストッパーセットに同梱の取付け説明書をご覧ください。

■本体の調整

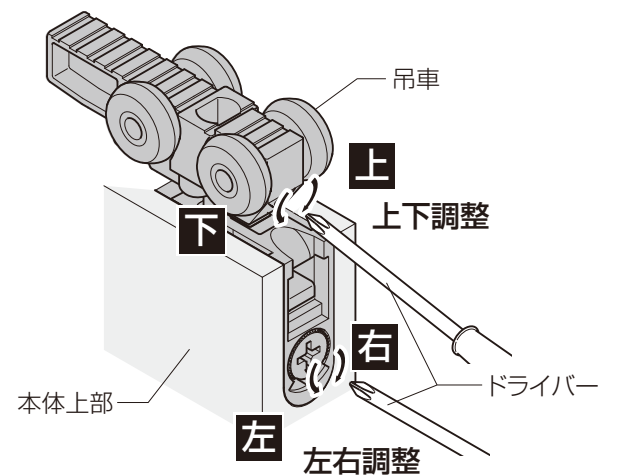
1 本体の上下・左右調整

上下調整(調整幅上4mm、下1mm)

プラスドライバーで、吊車上部の調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。

左右調整(調整幅左右各2mm)

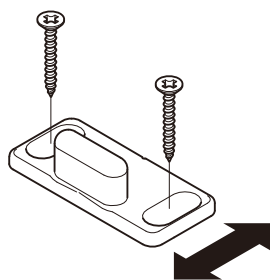
プラスドライバーで、吊車下部の調整ねじを右に回すと本体が右へ動き、左に回すと本体が左に動きます。



2 ガイドピン位置の調整

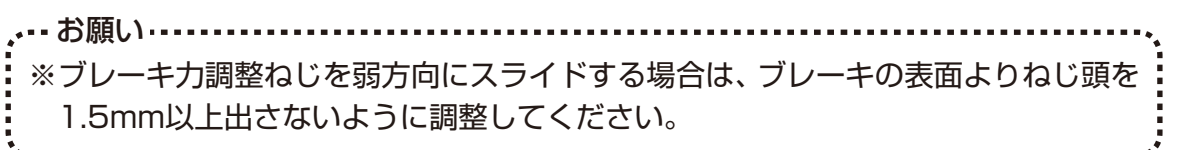
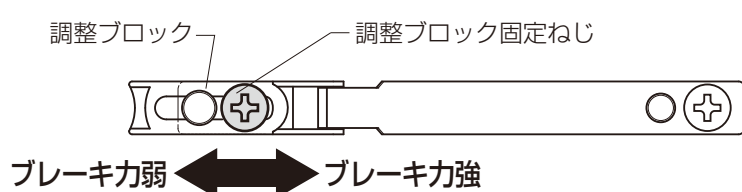
●固定ガイドピンの場合

ねじをゆるめて前後に調整して固定してください。

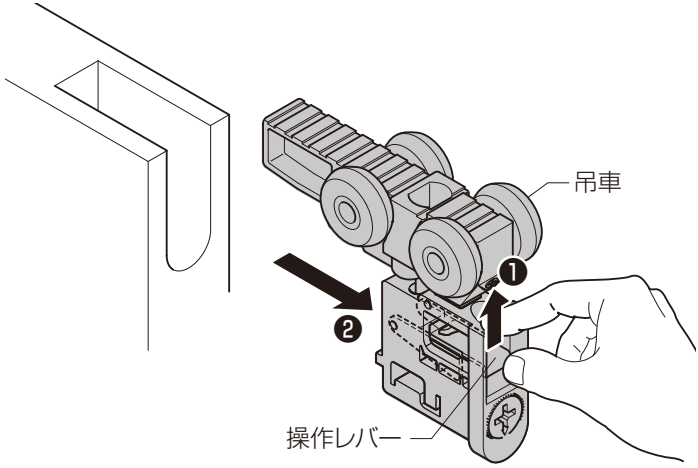


3 ブレーキの調整

上レール内側についているブレーキ部品の調整ブロック固定ねじを2回転までゆるめ、調整ブロックをスライドさせて、ブレーキ力を調整してください。調整後は、固定ねじを締めてください。



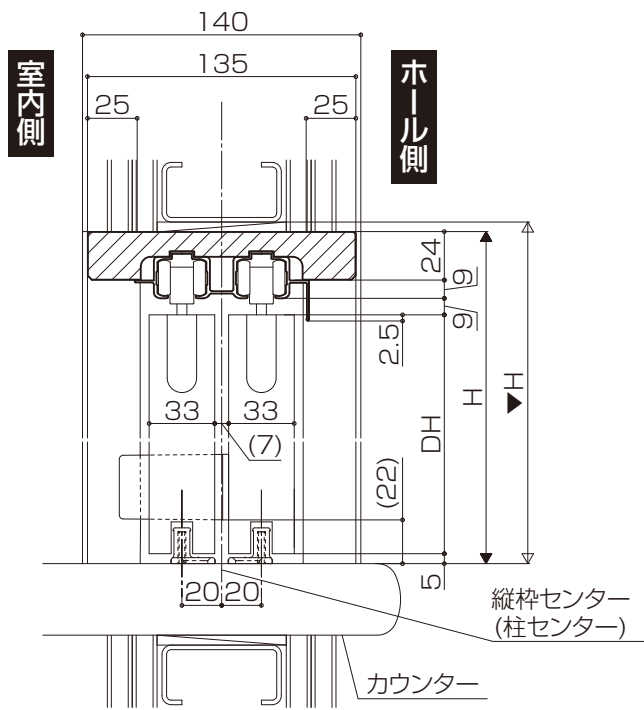
■異常時の対処

No.	現象	チェックポイント	対処方法
1	本体が閉まりきらない	枠の取付け精度が許容範囲をオーバーしている <参照> 取付け順序/ ■枠の取付け手順『取付け精度の許容範囲』	<p>本体を外し、許容範囲となるよう再施工してください。</p> <p>●本体の外し方 本体を手で支えてから吊車の操作レバーを指でつまみ、上に押し上げます。 次に吊車を本体の内部ケースより引抜き、取外します。 ※取外しがやりにくい場合は、マイナスドライバーなどを使用して操作レバーを押し上げながら引抜いてください。</p> 
2	鍵がかからない	枠の取付け精度が許容範囲をオーバーしている	No.1の対処方法を参照してください。
		本体が傾いている	本体の位置を調整してください。 <参照> 本体の調整/■本体の上下左右調整
3	本体の開閉が重い	ガイドピンと本体がこすれている	ガイドピンの位置を調整してください。 <参照> 固定ガイドピン：本体の調整/■ガイドピン位置の調整

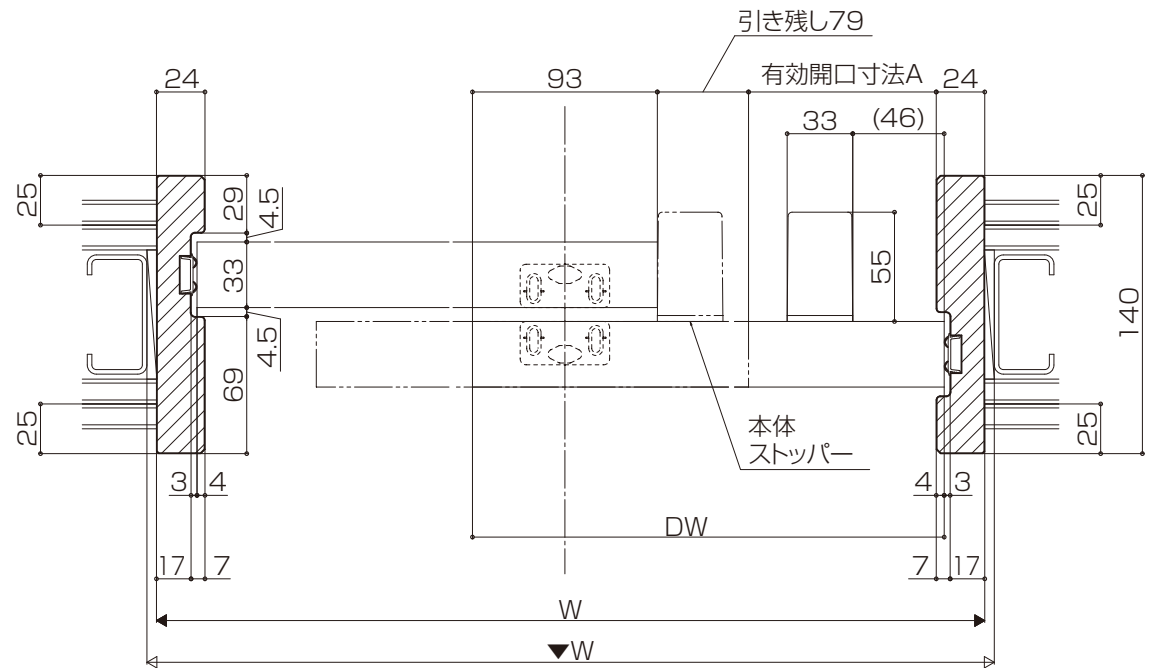
■納まり図

●見込み140mm

縦断面図



横断面図



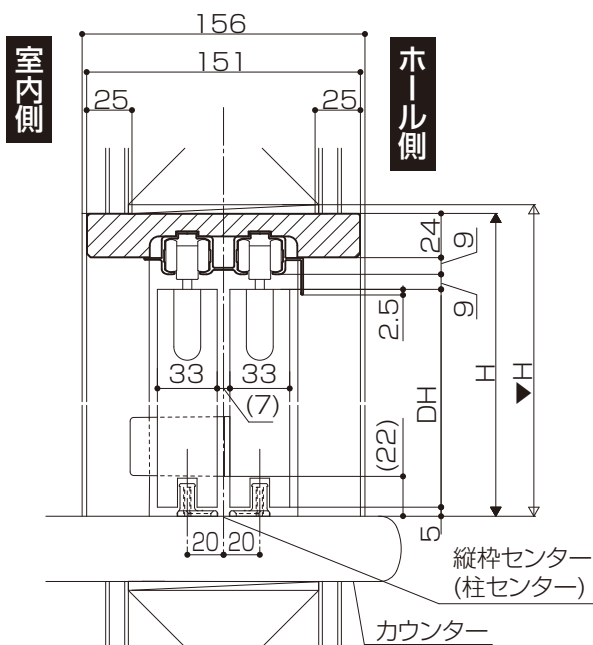
有効開口寸法

W呼称	A寸法
16	672.5

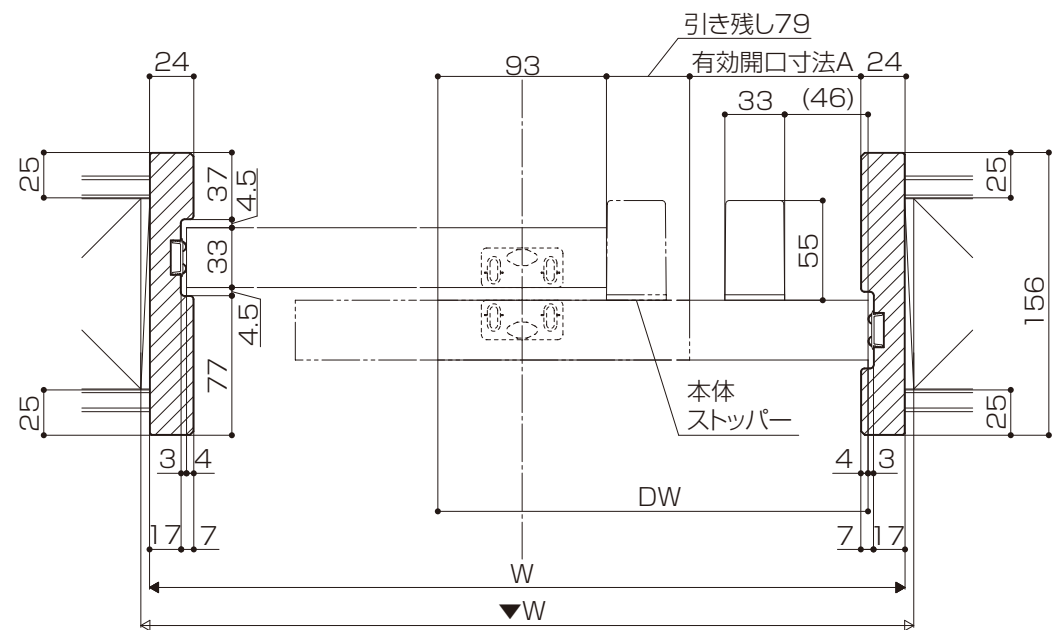
算出式：A寸法=(W-299)/2
DW=(W+53)/2

●見込み156mm

縦断面図



横断面図



有効開口寸法

W呼称	A寸法
16	672.5

算出式：A寸法=(W-299)/2
DW=(W+53)/2